3,

平山橋今昔



橋―平山橋―が架けられています。今盛金地区には市内でも数少ない沈下 も地元住民の大切な交通路として活躍 ◇舟渡しと共存―江戸時代 しているこの橋についてご紹介します。

えなくても済むような道を作ることが る人が絶えなかったため、 録されています。柵を設けても滑落す 下ノ久慈川エ落死スルモノ多シ」と記 にある盛金山は有名な難所で「峯ヨリ ませていたようです。特に久慈川西岸 落者やけが人を度々出して通行人を悩 で、県北地域について詳細な記録を残 した。江戸時代後期の水戸藩の役人 は、「平山の渡し」という船の渡し場で 家和楽、盛金に至る道は急な峠道で転 している加藤寛斎によれば、 現在平山橋の架けられているところ 盛金山を越 舟生から

◇度々の流失

は、 山方地域を南北に縦断する南郷街道政新道」と呼ばれました。その後、 を安全に通れるようになったのです。 沿いの道 た。平山橋が架けられてからは、川 政二年の春に開通したことから「安 する道を作ったのです。この道は安 東の対岸に渡り、 考えられました。 明治二十八年に県道になりまし (現在の国道118号線) 山の根伝いに北上 まず舟で久慈川

るため、 下橋は増水のときに流されにくくす く、水面からの高さは二・五メート 在でも欄干は膝の高さほどしかな 大正期のことといわれています。 、ほどです。地元の人からは「地獄 平山の渡しに橋が架けられたのは の愛称で親しまれています。 わざと水がかぶるように低 現

▲春の平山橋

常に渡船が営業していまし あっても度々流されたため 簡単な板橋でした。橋は ルほどの板を並べただけの で作られていました。 小川村からも補助を受ける し賃として得ると同時に下 た。船頭は米や麦などを渡 .橋は幅五十センチメート もともと、昭和初期の平

> が架けられました。このとき、 橋が架けられました。 橋も流失し、昭和五十八年に現在の のチリ除けも設置されました。その 昭和四十年に鉄筋コンクリートの橋 れます。 年十月には角材で組んだ木橋が作ら たっていました。その後昭和三十五 とする周辺五地区が交代で修理にあ しかし二年後には流され、 前記

も修復しやすくする利点もありま 単な構造にすることで、破壊されて うに作られているのです。また、 ることで橋自体が壊れるのを防ぐよ く作られています。抵抗を少なくす

度々協議されており、そのためコン

とはいえ、安全性については

クリートや鉄による補強がなされ、

今日では木材の部分は欄干のみに

ります。雨が降り出すと一時間から はほぼ年に一度は起こると古老は語 年に一度ほどになり、 いだった増水が昭和五十年代には「 一時間でみるみるうちに増水するよ うになったそうで ここ二十年で

昭和二十年代には三年に一度くら

四十年の設置当初は、払い下げに

チリ除け」と呼ばれるもので昭和

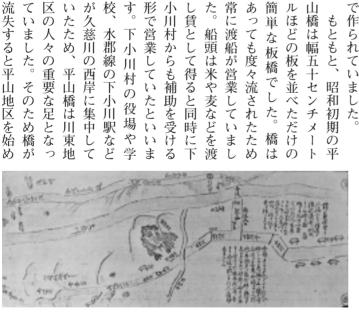
に斜めに鉄柱が設置されています。 には流木や土砂の衝撃を除けるため なっています。くわえて橋の上流側

なった国鉄のレールとコンクリート

くなったことが原因 でしょう。 土地の貯水効率が悪 が浅くなったことで 森林の伐採により山 装が進んだことと、 す。道路や側溝の舗

左右されてしまいま 環境の影響に大きく る地獄橋の景色も、 ふるさとを象徴す

だきました。 ~調査に御協力いた ※菊池昇氏に聞取



「北郡里程間数之記」 に描かれた平山付近

(歴史民俗資料館)

13